

令和2年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

佐原三菱館の歴史に関する調査（川崎財閥の歴史に関する調査） Phase3

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
研究分担者	井関 文一	総合情報学部 総合情報学科・教授
	伊藤 幸郎	総合情報学部 総合情報学科・特別研究員
	長谷川 純平	大学院総合情報学研究科・博士前期課程2年

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
香取市役所	生活経済部市民協働課
	総務企画部企画政策課
	教育部生涯学習課

4. 研究期間

2020年4月1日～2021年3月31日（3年計画の3年目）

5. 研究の目的

佐原三菱館の保存修理は2022年3月末に完了する予定である。そこで本調査では同館に関わる資料を引き続き収集するとともに、香取市から修復調査で新たに発見された資料も加えながら、これら共有された情報をもとに展示コンテンツを作成することを目的とする。

6. 研究報告

当初、本年度において香取市とはパネル展示会の市内開催を計画していたが、新型コロナ禍により来年度以降の実施に延期された。このため、今年度はパネル展示のためのコンテンツ作成と器材手配に注力し、来年度開催に向けた準備に当たった。一方で、今年度は新資料が発見されるなど当初の予想以上に佐原三菱館に関する新しい知見を発掘することができた。その成果の一部を今年度、早稲田大学クレジットビジネス研究所のサイト上に、以下の通り、ワーキングペーパーとして発表した。

- ・論文タイトル：三菱銀行による第百銀行の吸収合併に関する旧・川崎財閥からの検証
ー佐原三菱館の歴史から紐解かれる川崎銀行(第百銀行)を巡るパネルディスカッションー
- ・論文ナンバー：IRCB20-001
- ・掲載 URL： <https://www.ibi-japan.co.jp/prj-ircfs/pdf/ircb20-001.pdf>

また、香取市から本プロジェクトに学部生時代から携わり、佐原三菱館についての調査や広報活動を精力的に進めてきた本学大学院生に対して、地域貢献の実績が評価され、香取市から本学生に礼状が交付された。

7. 成果の公表

今年度の研究成果をパネル展示や公開講座といった形式で市民向けに開催できなかったが、上記の通り、論文発表として成果を公表した。また、市民向けに公開を予定していたパネル数点を東京情報大学が10月に実施したオンライン文化学術展にてインターネットを通して発表した。なお、新型コロナ禍により市民向けのパネル展示や公開講座の実施が具体的に見通せない状況にあるため、引き続き、学会や論文発表等の場を通して本調査で得られた最新の知見を積極的に公表する所存である。

また、先述した通り、香取市の宇井成一市長から、本プロジェクトに貢献したことに対して、長谷川純平さん（大学院総合情報学研究科2年）へ礼状が贈呈された。これは本学生が本研究の成果を広く香取市民に還元するための市民向け公開講座の開催等で尽力した点が評価されたためである。

8. 総評

香取市・市民協働課

東京情報大学と香取市は、平成24年に地域連携協定を締結し、大学には香取市を教育・研究活動のフィールドとして活用いただいております。市では市民協働のまちづくりを推進するため、お互いが協力・連携してさまざまな活動に取り組んでまいりました。

現在、香取市では千葉県有形文化財に指定され、歴史的な建造物である「佐原三菱館」の保存修理工事に取り組んでおります。昨年度は、川崎銀行が建築した建物群を紹介しながら、「佐原三菱館を知る～川崎銀行が遺した建造物を迎える～」と題したパネルディスカッションを行い、多くの市民に参加して頂き、フォーラムを盛況に終了することができました。今年度も市内で佐原三菱館に関する研究成果を公表するパネル展示会の開催を計画しておりましたが、新型コロナ禍のため、その開催を見送らざるを得ませんでした。

しかしながら、状況が改善した時期に、「佐原三菱館」が地域のシンボルとして、香取市民にいつそう愛着を深めていただくための機会設置を、御学と協力しながら進めていく所存です。引き続き、御学からのご支援を宜しくお願い致します。